"夢の飛行船"実現へ　本格離陸

実験拠点は「宇宙のまち・大樹」

最新の航空宇宙実験が繰り広げられている大樹町の多目的航空公園。昨年は次代の通信放送、地球観測システムとして期待される「成層圏プラットフォーム」の定点滞空飛行試験が行われた。先端技術を盛り込んだ全長68㍍の〝夢の飛行船〟は、高度4000㍍での通信放送実験にも成功、国の一大プロジェクトは大きく前進した。今年も広大な敷地と空を最大限に生かし各種実験が繰り広げられる予定で、「宇宙のまち・大樹」は航空宇宙技術の国内研究拠点として地場を固めつつある。昨年の飛行船試験の様子を写真で振り返る。

（写真提供は宇宙航空研究開発機構・総合技術研究本部、府中エアサービス協力）

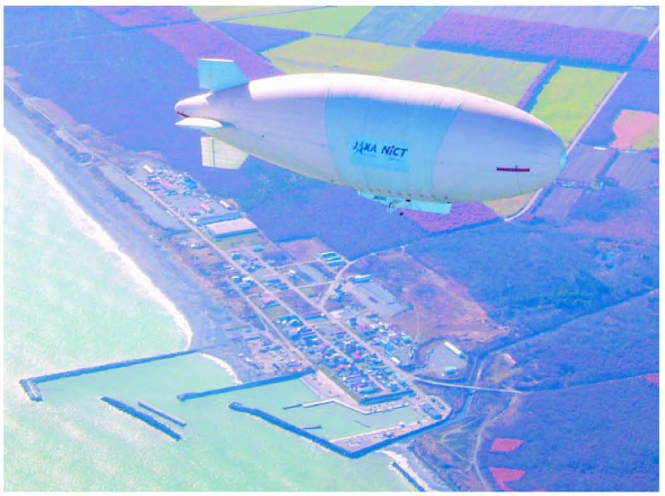
全長1キロの滑走路

飛行船の眼下に広がる大樹町の多目的航空公園。全長1キロの滑走路や飛行船を収容する牛舎型の格納庫などが確認できる（昨年11月5日）

海洋調査にも活用

実験用飛行船は海上も飛行。将来的には赤潮の観測など海洋調査にも活用される（昨年11月22日）

〈成層圏プラットフォーム〉気象条件が安定している日本上空約2万㍍の成層圏に、各種機器を搭載した無人飛行船（全長250㍍）十数機を人工衛星のように浮かべ、通信放送や地球観測、災害監視に活用する計画。世界的にも例を見ない試み。



最適な環境

太平洋に面し、平野が広がる大樹町は、実験環境としては最適。さまざまな状況を想定した実験が可能だ（昨年11月5日）

データを集積

町多目的航空公園内の飛行管制塔で無人飛行船を操縦、データ集積に取り組む実験クルー（昨年9月24日）

日高山脈を背に

はるかかなたに見えるのは日高山脈。飛行船は1500―2000㍍級の山々を背に4000㍍まで上昇（昨年11月22日）